

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立以来かかげる「六綱領」(自主・自律・堅忍・果敢・創造・開発)を基に、生徒の個々の夢を実現させる教育活動を実践し、社会人として自立でき、地域や社会に寄与する人材を輩出する。厳しく寄り添い、生徒・教職員がともに学び、ともに伸長することにより、「生徒・教職員にとって、楽しく伸び伸びと力を発揮でき、夢の実現に主体的に活動できる学校」、そして、地域との交流・連携を推進することにより、生徒・保護者・地域から愛され、信頼されるとともに、「地域に学び、地域とともに歩む学校」をめざす。

①夢を育み自立できる生徒を育成する学校 ～ キャリア教育・学習指導の充実 ～
生徒の持つ能力を掘り起こし、生徒の資質を磨き上げながら、「将来の夢について、自身で、自信を持って語ることでできる若者」を多く輩出できる教育活動を展開する。

②厳しく寄り添いながら生徒を指導・支援できる学校 ～ 生徒指導・支援体制の拡充 ～
様々な課題を抱えた生徒一人ひとりに対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校との連携を強めながら、できる限りの支援や指導を行う。さらに教職員個々が生徒の教育者であり、且つ、“生徒の応援者”としての機能を十分に発揮できる教育環境を構築する。

③地域とともに歩み、地域に愛される学校 ～ 地域連携の深化 ～
地域との連携を密にし、地域の豊かな自然環境や人材・施設等を活用した教育活動を展開し、地域力を積極的に取り入れながら、生徒の「豊かな心」、「生きる力」、「自尊感情」、「規範意識」を育成する。

2 中期的目標

1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成

(1) 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえ、「基礎学力の向上と定着」「思考力・判断力・表現力等の育成」「主体的で対話的な深い学び」をめざした授業改善を行う。

ア 数学・英語において「習熟度別少人数展開授業」を実施する。生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、進路に応じた選択科目を設定することで、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。また、教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等をとって「授業改善」を図る。
※生徒向け学校教育自己診断の授業理解度を3年後には80%とする。(H29…69、H30…69、R01…72%)

イ 図書館を学校での学びのセンター的機能を持つ場と位置づけ、本に親しむ場、自学自習できる場、調べ学習や調べたこと・学んだこと・考えたことを発表できる場としての環境整備をすすめるとともに、その利活用の推進を図る。
※図書館利用者数を3年後には年間7000人とする。(H29…1811、H30…2078、R01…5365人)

2 生徒支援体制の整備と充実化

(1) 将来の自分の生き方を設計できる力をつけることがキャリア教育であると考え、全ての教育活動をこの観点から実践する。また2022年度からの成人年齢の引き下げを見据え、「総合的な探究の時間」とLHR等を活用し、キャリア教育や人権教育・道徳教育等を総合的に実施し、美原の志学を確立させる。

ア 授業、学校行事・HR活動・生徒会活動・部活動等全ての教育活動を「自立した社会人を育てる」という観点から組み立てる。そのために入学から卒業までの3年間を見通した指導計画を策定する。外部人材や地域・施設の活用を積極的に取り入れ、地域に貢献できる人材を育成するよう努める。特に1年生に対して、進路に対する明確な意識を持たせることができるよう指導する。

イ 「総合的な探究の時間」「LHR」を中心に、3年間を見通した人権教育・道徳教育の指導計画に則り、人権意識の向上を図る。課題を抱える生徒の情報について学年、人権教育委員会、支援会議で共有できる体制を作る。
※進路未定率を限りなく0%に近づける。(H29…1.3%、H30…0%、R01…1.4%)
※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度を3年後には85%とする。(H29…79%、H30…75%、R01…82%)

(2) 「ええもんはええ あかんもんはあかん」を原則に「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導を実践する。計画的に生徒理解の研修等を実施することにより意識と質の向上を図るとともに、傾聴と守秘の姿勢で生徒に向き合い、その声を受け止め、生徒理解を深める。

ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。

(3) 相談室の常駐体制と3Cルーム(Counseling・Coaching・Conference)の活用を図り、生徒が安心して相談できる環境を整備する。また、SCを活用し校内の相談体制を充実させる。支援コーディネーター、支援会議を中心に、中学校や相談機関、医療・福祉等関係諸機関との連携の深化を図る。

(4) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動等を展開し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

イ 体育専門コースの充実を図り、活動を地域にも広げ、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。
※転退学者及び留年生の減少

3 地域と連携した安全・安心で魅力ある学校づくり

(1) 地域への広報活動に積極的に取り組み、美原の良さをアピール、入ってよかった学校をめざす。

ア 中学校訪問、学校見学会や学校説明会等のさらなる充実を図り、美原に入りたい生徒を増やす。

イ HPをはじめICTの活用をさらに進め、広報活動を充実させる。
※生徒向け学校教育自己診断における学校行事の肯定度を3年後には85%にする。(H29…78%、H30…75%、R01…77%)
※保護者向け学校教育自己診断における学校が提供する情報の利用度を3年後には75%にする。(H29…54%、H30…66%、R01…65%)

(2) 地域の関係諸機関との連携を密にし、地域とともに歩み、生徒が安全で安心して過ごせる学校をめざす。

ア 地域と連携した生徒の自主的な活動を推進することで、生徒の自己有用感を高める。

イ 地域と連携して生徒が安全で安心して学校生活を送ることができる取組を推進する。

ウ PTAや同窓会等と連携して、生徒が安全で安心して過ごせる教育環境整備をすすめる。

エ 地域の国際交流を推進する団体等と連携した国際理解学習、国際交流活動を推進する。

オ 外部人材の活用等により、職員の時間外労働時間の縮減をめざす。
※学校教育自己診断における施設・設備に対する満足度を3年後には生徒・保護者とも70%にする。
(H29…生徒50%、保護者57%、H30…生徒53%、保護者56%、R01…生徒60%、保護者60%)
※学校教育自己診断における国際理解教育に対する肯定度を3年後には生徒・保護者とも80%にする。
(H29…生徒76%、保護者63%、H30…生徒69%、保護者66%、R01…生徒70%、保護者67%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>全22項目中、生徒では15項目、保護者では20項目、教員では12項目で肯定的回答の割合が下降した。特に今年度は新型コロナウイルス対策のための休校措置、学校行事の時期変更や縮小、授業形態の制限等が多くの項目のポイント低下に影響しており、昨年度までとの比較が難しい。</p> <p>【学習指導等】 感染症対策による制限のため、特に「実習実験による体験授業」の項目が大きくポイントを下げた。その他にも学習に関してポイント低下した項目が多いが、「学校で勉強するのは大切なことだと思う」の項目は昨年度よりも僅かにポイントが上昇し、年々上昇している。今後も学校が安心して勉強できる場所となるよう努めていきたい。</p> <p>教員の結果では昨年を引き続き「ICT機器を積極的に活用している」の肯定度は90%を超えている。「主体的・対話的で深い学び」を取り入れる割合も年々増加の傾向にあり、今後も継続して授業改善に励み、魅力ある授業づくりにつなげていきたい。</p> <p>【生徒指導等】 「生活指導をきっちり行っている」や「先生の指導を理解できる」の項目では生徒の肯定的回答が年々上昇している。保護者の肯定的回答も85%</p>	<p>◇ 第1回(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面による意見聴取で実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業の実施により、授業の理解度が上昇していることから継続してもらいたい。 ・主体的で対話的な深い学びを推進する上で、学校図書館を学びの場として環境整備を進めていることが利用者の増加に表れている。図書館の利用者数の増加から勉強意欲が増している事が伺えるので整備を続けてもらいたい。 ・広報活動においてHPを積極的に活用し、美原高校生の学校生活の良さや魅力をもっと外部に発信してほしい。また部活動やその他の取り組みで美原高校としてのアピールできる特徴を見出すことが生徒数の確保に繋がると思う。 ・生活指導は変わらず厳しいままで、行ってもらいたい。しっかりと生活指導基本方針をもって生徒に臨んでいることが落ち着いた学校生活に繋がると思う。 <p>◇ 第2回(令和2年12月1日(火))</p> <p>令和2年度 学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休校時に生徒は学習面生活面において不安を感じていたと思う。そういった不安等がアンケートの数値に反映されているかが気になる。 <p>令和2年度 第1回授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通教室のホワイトボード化は授業のICT化やわかりやすい授業においてとても有用である。第2回授業アンケートの結果からその効果が表れると思うので期待している。 ・今年度は休校期間により、生徒にとっては圧迫感のある授業計画であったように思う。 <p>新型コロナウイルスにおける対応の経緯や対策について</p>

<p>以上あり、きっちりとした生活指導が浸透しているようである。</p> <p>進路指導に関しては、今年度や肯定的回答がやや低下したものの、生徒・保護者ともに8割近くが適切な指導が受けられると回答しており、今後も丁寧な指導を継続していきたい。</p> <p>【学校運営】</p> <p>いじめや教育相談体制についての肯定的な回答は年々上昇の傾向がある。教員の結果では、特に「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」の項目が大きく上昇した。様々な支援の必要な生徒が増えており、今後も丁寧に対応する姿勢を継続していきたい。</p> <p>また、連絡体制として今年度は臨時休校等の連絡でホームページやまちこみメールを活用したことにより、昨年よりも大きくポイント上昇した。今後もホームページ等により正確な情報を迅速に発信するとともに、オンライン授業等にも対応できる校内環境整備を進めていく必要がある。</p> <p>教員の結果では「各種会議が意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」や「会議の内容が教育活動や学校運営に生かされている」の項目がともに4ポイント上昇し、昨年度までの低下傾向が改善されている。今年度は特に、急な変更や対応に教職員が一致団結してあたる必要があり、会議が有効に機能したと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休校期間、分散登校などその時期に応じてきっちりと対応されている。また感染症への対策もしっかりされている。万が一、感染者が出たときに個人を守れるような対策を事前に準備してほしい。 <p>新教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような生徒を3年間通して育てていきたいかということが新教育課程考えていく上で重要である。そこが定員割れも防げるのではないかなと思う。 <p>授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を見学する度に、授業の取組みが毎年発展していることに感心する。 ・多くの先生がパワーポイントを使用している工夫しているように思った。 ・生徒も熱心に取り組んでいる。 ・授業の進歩を年々感じている。先生方の努力の賜物だと思う。 ・生徒が前を向いて授業を受け、窮屈さを感じない様子であった。 ・落ち着いた環境が美原のアピールポイントではないか。 ・先生方の工夫と生徒の態度の良さに感心した。定員割れが不思議に思う。 <p>◇第3回（書面による意見聴取で実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断においてコロナ禍にあって生徒指導方針がうまく伝わらない面もあったのではないかな。 ・授業アンケート結果についてほとんどの項目で1回目より2回目の方が数値が高くなっている。教員の授業改善の努力と生徒との人間関係形成が実を結んだ結果だと思う。 ・厳しい社会情勢の中でほぼ例年通りの進路実績が得られたことに安堵しています。 ・コロナ禍で分かった少人数授業の必要性において、美原高校の取組が一つのモデルになるかもしれません。 ・公立高校の枠の中で美原高校の先生方は新しい情報ツールなどのトレンドを取り入れ、非常に創意工夫を凝らした生徒にわかりやすい授業をされていると思います。 ・各生徒の多様な家庭事情も含め、生徒一人ひとりのメンタルケアに重点を置き、より一層生徒に寄り添う体制づくりが大切になってくるのではないのでしょうか。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力と学びへの主体性の育成	<p>(1)基礎学力の向上と定着をめざした授業改善の取組み</p> <p>ア 生徒実態に応じた「わかる授業」「主体的で対話的な深い学び」の展開</p> <p>イ 新学習指導要領を見据えたカリキュラムマネジメントへの組織的な取組みと教員力の向上</p> <p>(2)図書館の環境整備とその利活用の促進</p> <p>ア 図書館利用を促進する環境整備</p> <p>イ 図書館を活用した主体的で対話的な学びの定着</p>	<p>(1)</p> <p>ア・習熟度別少人数展開授業(1年・英語、数学)の実施やICTを活用した個別学習等により、基礎学力の定着を図るとともに学習を大切にすることを育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチコンテストや少人数展開授業(3年・国語、英語)等により、進路実現に向けて自己表現力の伸長を図る。 ・グループワークやプレゼンテーション等「主体的で対話的な深い学び」となる授業研究をすすめ、授業改善の取組みを推進する。 <p>イ・「評価と指導の一体化」の観点を踏まえた公開授業・研究授業の実施や授業アンケート結果の分析を行い、新学習指導要領を見据えた授業改善・授業力の向上を図るとともに、経験年数の少ない教員を中心に他校種の授業見学を実施し、教員力の向上をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学習に利用できる書籍の拡充(地域の図書館との連携も含む)ICT環境の整備</p> <p>イ 調べ学習や探究活動等図書館を活用した授業(グループワーク・調べ学習・探究活動)の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断「勉強することは大切」(R01…81%)「少人数によるきめ細やかな指導」(R01…72%)昨年以上に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数展開授業での生徒満足度を高める ・R01 満足度(1年数学 79%・英語 90%・3年国語 98%・英語 95%) ・授業アンケートでの「授業の様子」の評価の平均を昨年度の水準以上に「(R01…3.46) <p>イ・公開授業月間の実施(2回)、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断(生徒)「教え方の工夫」(R01…79%)「授業はわかりやすい」(R01…72%)を昨年度以上に <p>(2)</p> <p>ア・公立図書館からの団体貸出数(R01…180冊)昨年以上に</p> <p>イ・図書館利用数並びに貸出数を昨年以上に(R01…5365人[うち授業2435人]・933冊)</p>	<p>ア・「勉強することは大切」82% (○)</p> <p>「少人数による指導」66% (△)</p> <p>今年度は少人数授業を計画通り進めることが出来ない期間があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数満足度は1年：数学 83%・英語 96%、3年：国語 94%・英語 83%であった。引き続き自己表現力や情報活用能力を高める授業づくりを進めていきたい。(○) ・授業アンケート「授業の様子」の平均値は3.46となった。魅力ある授業づくりについてさらなる向上に努めたい。 ・授業見学・授業アンケートの分析など授業改善の取組み(公開授業月間・研修)は計画通り進めることができた(○)。しかし、自己診断(生徒)の「教え方の工夫」76%、「授業はわかりやすい」69%と昨年度を下回った(△)。わかりやすい授業に向けた組織的な工夫が一層必要である。 <p>ア・蔵書数は314冊の増加であったが、分散登校や短縮授業を余儀なくされ、団体貸出数50冊となった。(○)</p> <p>イ・図書館利用数4020人(うち授業1548人)、貸出数759冊となった。(△)</p>
2 生徒支援体制の整備と充実化	<p>(1)キャリア教育、人権教育の推進</p> <p>ア 3年間を見通したキャリア教育による進路実現</p> <p>(2)「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導の実践</p> <p>ア 生活習慣の確立と豊かな人間性の涵養をめざした生徒指導</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「総合的な探究の時間」等で自己の在り方生き方を考える機会を設ける。3年間を見通した計画に基づき進路指導の充実を図り、早い段階から具体的な進路目標を持たせる取組みを推進する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・全教職員がベクトルを合わせ一人ひとりの生徒が安全で安心してしっかりと学べる環境を維持・発展させるとともに、生活習慣確立をめざす取組みを実施する。(登下校指導、遅刻指導、校内巡回等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの実施やSNSをめぐる問題の学習などを通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を育む教育を実践する。 	<p>(1)</p> <p>ア・学校斡旋就職1次内定率昨年以上に(R01…86%)、第一希望の大学・短大・専門学校等への進路実現率を昨年度以上に(R01…97%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「進路についての適切な指導を受けられる」肯定度(R01…82%)を昨年以上に <p>(2)</p> <p>ア・遅刻回数(校務処理システムによる遅刻カウント数)一人平均1.2回以内をめざす(R01…1.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断における「生活指導」に関する肯定的意見、昨年以上に(R01…70%) ・生徒向け学校教育自己診断における「人権」に関する肯定度(R01…81%)昨年以上に 	<p>ア・就職希望者の進路実現については、厳しい情勢のなか第1次内定率85%となり、昨年度並みを維持することが出来た。(○)しかし、大学等への進路実現率は90%にとどまった。早い時期からの生徒の目標を持たせて計画的に学習する意識を高めたい。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「進路についての適切な指導を受けられる」の肯定度は80%であった。計画的に進路指導が進められなかった中、概ね昨年度並みを維持することが出来た。(○) <p>ア・日々の取組みの結果、一人当たりの遅刻回数が1.1と、昨年度以上に少ない状況である。この水準を維持していきたい。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「生活指導」に関する肯定的意見70%(○) ・生徒向け学校教育自己診断における「人権」に関する肯定度80%(○) ・職員研修や定例会議が効果的に行われ、生徒への指導は一定理解されている。さらなる向上に努めたい。

府立美原高等学校

	<p>(3)個に応じた支援体制の充実 ア 学校生活を送るうえで、様々な課題を抱えた生徒の支援の充実</p> <p>(4)生徒の自己有用感の醸成 ア 生徒の主体的な活動の充実</p> <p>イ 体育専門コースの充実</p>	<p>(3) ア・学習においてさまざまな困り感を抱える生徒に対する支援を情報共有しながら、組織として学習を支援する体制を整える。 ・支援会議を教育相談の中心に位置づけ、生徒一人ひとりへの細やかな対応を行うことにより、不登校等を減少させる。</p> <p>(4) ア・体育大会、文化祭等生徒が主体的に企画・運営・参画する行事を充実させる。 ・部活体験の実施(1年)など部活動の成果を発表する機会を増やすことなどにより、部活動を顕彰する。 ・地域中学生参加による部活動大会(美高杯)については、実施時期や方法を検討したうえで実施するとともに、生徒の地域のイベント等への自主的な活動を推奨し、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。 イ・特色ある授業の展開や防災教育の観点を取り入れた校内での野外体験実習の実施等により、生徒の達成感を醸成する。</p>	<p>(3) ア・学校教育自己診断における「親身に相談に応じてくれる」生徒・保護者の肯定度(R01…生徒 73%,保護者 73%),保護者「相談に適切に応じてくれる」(R01…79%),昨年以上に</p> <p>(4) ア・生徒の学校行事に対する満足度、昨年以上に(R01…77%) ・新入生の部活動加入率 50%以上(R01…43%) 学校教育自己診断における「部活動はさかん」肯定度(R01…生徒 58%,保護者 67%)を昨年以上に ・地域のイベントやボランティア活動に参加した生徒の数(R01…127人)</p> <p>イ・体育専門コース選択生の満足度を昨年以上に (R01…2年生 94%, 3年生 100%)</p>	<p>ア・「親身に相談に応じてくれる」に対する生徒の肯定度74%(○)、保護者の肯定度 65%(△)、「相談に適切に応じてくれる」の保護者の肯定度は73%(△)であった。保護者との丁寧な連携に一層取り組みたい。</p> <p>ア・コロナ禍の影響により行事が満足に行えず、生徒の学校行事に対する満足度は61%にとどまった。(一) ・部活動加入率は45%と十分な勧誘期間が確保できなかったにもかかわらず、昨年度から向上した。(○) 学校教育自己診断「部活動はさかん」の肯定度は生徒62%、保護者66%で、昨年とほぼ同水準であった。(○) ・地域のイベントがほとんど中止となり生徒のイベント参加者数は24人とどまった(一)。 イ・体育コース満足度2年94%、3年100%で昨年と同水準であった。(○) 実践的、効果的な専門科目としての授業をさらに検討していきたい。</p>
<p>3 地域と連携した安全安心で魅力のある学校づくり</p>	<p>(1)広報活動を強化し、学校の魅力の発信 ア 広報活動のさらなる充実</p> <p>イ ICT等を活用した情報提供</p> <p>(2)地域と連携した取組みの推進 ア 地域と連携した生徒の自主的な活動の推進</p> <p>イ 安全・安心を高める取組みの推進</p> <p>ウ PTA等と連携した教育環境整備</p> <p>エ 国際交流・国際理解教育の推進</p> <p>オ 業務の効率化の推進、職員の時間外労働時間の縮減</p>	<p>(1) ア・旧7学区以外の中学校への広報活動を実施するとともに近隣中学校との連携を強め、美原をめざす生徒を増加させる。 イ・HPを随時更新することで、本校の取組み等を発信し、広報に努めるとともに、メール配信等により、保護者へ迅速(非常変災時の対応など)かつ適切な情報提供を行う。</p> <p>(2) ア・地域の各種イベントへの参加や協力等を通じて、生徒の自己有用感を高める。 イ・PTAや地域の外部機関等と連携しながら、生徒の安全や安心を高める取組みをすすめる。(熱中症対策や防犯・防災、交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等)</p> <p>ウ・PTAと連携した校内緑化活動の実施 ・PTAや同窓会等と連携した教育環境整備の推進</p> <p>エ・地域の国際交流協会を推進する団体等と連携した国際理解教育を推進するとともに、生徒の海外語学研修を実施する。</p> <p>オ・ペーパーレス会議の実施等、業務の効率化を進めながら、職員の意思疎通やコミュニケーションの活性化を図る。また、最終退勤時間の目標時刻の見直し等の取組みにより、時間外労働の縮減を図る。</p>	<p>(1) ア・学校や地域での説明会の参加者数・満足度昨年以上に (R01…参加者 664人・満足度 95%)、 イ・HPの更新回数昨年以上に (R01…70回) ・学校教育自己診断(保護者)における「HP・メール」利用度、昨年以上に (H31…65%) 保護者向けメール配信回数昨年度以上(H31…50回)</p> <p>(2) ア・地域のイベント等への生徒参加回数・人数、昨年以上に(R01…12回・127人) イ・自転車の交通事故件数の減少(R01…52件)</p> <p>ウ・学校教育自己診断「施設・設備」の満足度(R01…生徒 60%,保護者 60%)を昨年以上に</p> <p>エ・学校教育自己診断「国際理解教育」の肯定度(R01…生徒 70%,保護者 67%)の向上</p> <p>オ・職員の平均時間外労働時間を前年以下の水準に</p>	<p>ア・校内および近隣市、中学校での説明会の参加者総数は323名でアンケートでの満足度は98%であった。近隣中学校へは各校3回ずつ訪問し広報活動に努めたが、校内の説明会は例年5回の実施を今年度は4回の実施とし、近隣市合同保護者説明会や出前授業が軒並み中止となった。(○) イ・HPの更新回数90回(◎) ・学校教育自己診断(保護者)における「HP・メール」利用度 79%(◎) 保護者向けメール配信回数 50回(○)</p> <p>ア・今年度は地域のイベントがほとんど中止となり、地域交流が思うようにできなかった。イベント参加数1回、イベント参加人数24人(△) イ・自転車事故件数:31件(登下校時29件)外部機関と連携し、交通安全を含め安全安心を図る取組みを進めることができた。今後も関係機関等連携しながらより効果的な取組みを考えていきたい。(◎)</p> <p>ウ・学校教育自己診断「施設・設備」の満足度 生徒 57%,保護者 59%(○) 防災対策、感染症対策などの観点から施設・設備の再点検を図っていく必要がある。</p> <p>エ・学校教育自己診断「国際理解教育」の肯定度 生徒63%,保護者59%(一) コロナ禍の影響により、海外語学研修をはじめ、国際交流事業が計画通り行えなかったことが原因と考えられる。</p> <p>オ・職員の平均時間外労働時間 29時間29分(12月末現在※R01 平均31時間30分)(◎) 時間外労働時間の縮減のみならず、職員の観点別学習状況評価やオンライン授業など新しい取組みに対するストレスを軽減することが必要となる。</p>